

平成 25 年度 ～防災の日常化をめざして～

みえの防災活動 事例集



自分の命を守るため！ 地域の未来を守るため！
一人ひとりが考え、ともに行動する！

— 津波避難に関する三重県モデル事業実施報告書 —



平成 25 年 3 月
三 重 県

避難所運営マニュアル 基本モデル

～地域でマニュアルづくりを進めていくために～



はじめに

未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生してから3年が経ちました。東日本大震災発生時に持った危機意識も、現在では時間の経過とともに薄れつつあります。私たち一人ひとりにとって大切なことは、あの震災のことを絶対に忘れず、風化させないことです。

三重県においても、近い将来の発生が危惧される南海トラフを震源域とする巨大地震や内陸活断層による地震、さらに毎年のように各地で発生している局地的大雨や台風の脅威にさらされています。これらの災害に対し、日頃からの備えを怠らず、災害が発生したとしても、その被害を最小限に抑えていくことが私たちの責務です。私たちは、東日本大震災や紀伊半島大水害から学んだことをそれぞれの立場で実践に移さなければなりません。

県では、これからの三重県の地震・津波対策の方向性と道筋を示すものとして、「三重県新地震・津波対策行動計画」を策定いたしました。この計画のキーワードは「防災の日常化」です。

防災・減災対策が非日常的な特別な活動ではなく、日々の業務や生活と一体となった当たり前のものとなること、すなわち「防災の日常化」をめざします。

「自助」、「共助」、「公助」、これらの取組が一体となることによって、はじめて県民の皆さんの命や財産を守ることができます。

この計画を、「公助」を担う行政や関係機関、関係団体だけでなく、「共助」や「自助」の取組を実践する地域や県民の皆さんとも共有し、県民力を結集して、行動していきます。

県は昭和19年に東南海地震が発生した12月7日を「みえ地震対策の日」と定めています。

この事例集は、みえ地震対策の日を記念したシンポジウムで表彰された、平成25年度「みえの防災大賞」受賞団体の、特色ある自主的な防災活動を皆さんにご紹介する情報誌として発行しました。

平成25年12月8日(日)に、多気町民文化会館で開催した「みえ地震対策の日フォーラム」で、平成25年度「みえの防災大賞」表彰式が行われました。



目 次

1. 県内で活動する団体（平成 25 年度みえの防災大賞受賞団体の取組）

県内各地で特色ある自主的な防災活動を行っている団体を募集し、「みえの防災大賞」1 団体と「みえの防災奨励賞」5 団体を表彰しました。

みえの防災大賞

南が丘地区自主防災協議会	1
（津市）	

みえの防災奨励賞（五十音順）

安楽島子ども会	3
（鳥羽市）	
川島地区防災協議会	4
（四日市市）	
志登茂第 2・3・4 自治会自主防災会	5
（津市）	
南伊勢高等学校南勢校舎	6
（南伊勢町）	
四日市市笹川連合自治会	7
（四日市市）	

2. 参考資料

①避難所運営マニュアルパンフレット	8
②「My まっぷらん」を活用した地域における 津波避難計画策定パンフレット	10



「南が丘地区自主防災協議会」は、南が丘地区 17 自治会と地域の学校が一体となって活動し、地域住民の安全と災害に強い安全安心な街づくりを目指しています。

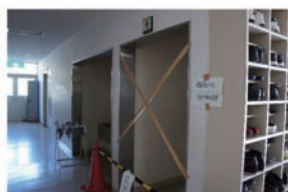
地域住民に自分の地域を知ってもらうために、地震・津波・液状化についての正しい知識の啓発や、大規模災害発生後の避難所生活へのスムーズな移行のため、地区内施設の有効利用や、他地区住民の受入れ・帰宅困難者の対応について協議の実施、また海岸地域との合同懇談会を開催しています。

また小・中学校の先生・児童あるいは親子で避難所運営訓練を行うなど、次世代層への防災教育、女性や中学生を対象とした防災啓発に力をいれて取り組んでいます。

防災・減災活動の継続ということについては、ほとんどの自治会長・役員が毎年交代してしまうことの多い中、数年にわたって防災活動を行っている役員が中心となり、勉強会を行うなど、訓練を繰り返し行うことで経験者を地域に増やし、いざという時に避難所で核となる人材を増やす取組も実施しています。

地域防災の活性化に貢献しており、近隣地区や同じ高台地区との連携強化も図られており、他団体や他地域への拡がりが大いに期待されます。

なお、本団体は、平成 21 年度「みえの防災奨励賞」を受賞しています。



小・中学校関係者を巻き込んだ避難所運営訓練

ストローハウスと液状化実験



南が丘中学校 全校生徒・先生を対象とした防災講演会



各自主防災会長を中心とした運営委員への指導



避難所と集会所間の無線通信訓練

女性を中心としたグループとの防災研修会



地震・津波について勉強



「猫の砂」を使った非常用トイレの体験

《今後の活動について》

今後の活動としては、自宅が地震・津波の被害が少ないと想定される住民へは、自宅そのものを避難所として使用できる「安全・安心な自宅避難の勧め」キャンペーンや、自宅避難者に対する支援の具体的検討、海岸地区の方との合同避難所運営訓練、火災に対する取り組みの検討を行っていく予定です。

平成25年度みえの防災奨励賞

安楽島子ども会

「安楽島子ども会」は、子どもがいつでもどこにいても自分で自分の身を守る能力をつけることと、街の安全意識と地域への関心を高めるために積極的に防災活動を実施しています。

津波発生時に安全にどれぐらいで避難できるか、年配の方々と一緒に避難訓練を実施し、課題を検証しながら子どもたちの手づくり防災マップの作成や、地域住民との交流を図るなどコミュニティの活性化に大いに貢献しています。

また、平成17年から毎年小学生の「ぼうさい探検隊マップコンクール」に応募し、ぼうさい探検隊賞、消防庁長官賞、防災担当大臣賞などを受賞し、昨年度は未来へのまちづくり賞を受賞しました。

子どもたちの行動力で地域を巻き込み、地域全体でぼうさいの街づくりに取り組む姿勢は、他地域への広がりが期待されます。



避難路を高齢者と歩き、かかった時間を計測



子どもたちが手づくりで防災マップを作成



ぼうさい探検隊マップコンクール表彰式



放課後クラブ活動の様子

平成25年度みえの防災奨励賞

川島地区防災協議会

「川島地区防災協議会」は、避難所運営マニュアルのみならず災害対策本部の開設と運営に関するマニュアルも整備し、普段防災に携わらない人でも行動しやすい体制が整っています。地区内31箇所で自噴・汲み上げ井戸の所有者と災害時協力協定を結び登録を行うなど、地域性を活かした取り組みが行われています。

また、47名の女性防災隊組織による放水訓練、各種行事における炊き出し訓練の実施も行われるなど、女性の活動もめざましいものがあります。

そのほか、65歳以上の高齢者世帯を対象とした家具転倒防止金具の取付けキャンペーンや、防災イメージソングを独自に創作し、普及活動を行うなどユニークな取り組みを行っています。

今後は、地区内の医療機関、医療従事者、専門技術者と応援提携を推進するなど、災害に強い街づくりが期待されます。



女性防災隊の訓練活動（放水・可搬式ポンプの取扱い訓練）



災害時協力井戸の登録

奨励賞 平成25年度みえの防災奨励賞志登茂第2・3・4 自治会自主防災会

「志登茂第2・3・4 自治会自主防災会」は近年、住民の高齢化が顕著で、平成30年には75歳以上の世帯主が全体の50%以上になると推測されている地域もあることから、日頃からの備えが大切であるとの認識の下、活動しています。

防災マップや防災啓発チラシを作成して全戸配布を行い、防災意識の高揚と知識の普及を図り、防災訓練の実施、防災機材の充実等を重点とした活動を行っています。

また、志登茂園入口の住居案内看板の裏面を活用した「避難場所・避難経路のマップ看板」を設置し、災害発生時の速やかな避難行動や、住民の防災意識の向上に役立たせています。

さらに要援護者への支援体制の充実も図っていくことにも重点をおいて、住民自らが町の防災対策を考える主体的な自助・共助の取組を行っており、地域の高齢化に対する耐久性のある街づくりが期待されます。



防災訓練



タウンウォッチングの結果を総括

「いざ」という時のために 知っておこう 志登茂園周辺の避難場所

防災・減災に向けて「備え」「行動」しよう



防災の日常化で
災害に強い
地域づくりを!

自助 共助 公助

自らの身の安全は自ら守る 自らの地域は皆で守る 行政、防災関係機関が助る

自主防災活動に参加しよう



ここは 海拔 2.2m

入居者案内は裏面を見てください
平成25年9月作成

避難所・場所		収容人数 (人)	海抜 (m)	避難区分				所要時間(分)	
				風水害	地震	津波	徒歩	自転車	
避難所	一身田中学校	1,510	2.5	○	○	○	20	9	
	一身田小学校	1,410	3.7	○	○	○	26	13	
	一身田公民館	60	2.7	○	○	—	17	7	
	高田中・高田小	1,890	3.7	○	○	—	25	12	
	志登茂文化センター	1,700	22.0	○	○	○	38	16	
	三重短期大学	1,170	1.7	○	○	○	18	8	
第2徳島病院	590	2.2	—	—	○	13	6		

志登茂園 西・東公園
県立徳島大学

高田中山層神寺
身体障害者福祉会福祉センター

避難場所・避難経路のマップ看板

平成25年度みえの防災奨励賞

南伊勢高等学校南勢校舎

「南伊勢高等学校南勢校舎」は、地域の防災力向上のため、数年前から学校が一丸となって防災学習に取り組んでおり、地域防災に大きく貢献しています。

平成24年8月には、岩手県山田町でのボランティア活動に参加し、昨年の津波防災の日シンポジウムで活動報告を行い、本年8月にも岩手県久慈市や山田町にもボランティアとして参加しています。

地元では、町内民話を紙芝居化し、生徒がグループに分かれて町内小学校に出向き、小学生に読み聞かせを継続実施しています。

また、Web津波避難マップの作成や、SBP（ソーシャルビジネスプロジェクト）活動により地元産業界との連携を開始し、地域が抱える問題をビジネスの手法で解決していく取組も行っています。

地域と協働しながら高校生が主体的に取り組む防災教育の推進と防災教育を通じた街づくりと地域の活性化が大いに期待されます。



海岸清掃



写真の仕分け



町内民話を紙芝居化し、生徒がグループにわかれて小学生に読み聞かせ

平成25年度みえの防災奨励賞 **四日市市笹川連合自治会**

「四日市市笹川連合自治会」は、地区人口に対して外国人の割合が7.6%を占めており、四日市市でも外国人が一番多く住んでいる地域です。

地域で「笹川団地地震ノート」冊子を作成し、そこに掲載された避難所マップや防災準備品リストに、日本語のほか、ポルトガル語を併記するなど、外国人に配慮した取組を実施しています。また平成22年度から毎年、笹川で暮らす外国人住民と一緒に考える防災セミナーも開催しています。

さらに、1丁目、2丁目といった各丁単位での防災訓練が行われており、訓練報告書の提出により各丁の活動内容が参考となり、お互いに刺激となり機運が高まっています。

全国的にも外国人の集住率が非常に高い笹川地域において、自治会が中心となった防災活動を継続することで、国籍や民族、年齢、性別、障がいの有無に関係なく、すべての住民にとって安全で安心な街づくりが期待されます。



避難所体験



防災（消火）訓練



外国人住民と一緒に考える防災セミナー



避難所運営マニュアル基本モデル

避難所は住民の自治による開設・運営が必要です。

避難所運営マニュアル基本モデルをベースとして地域ごとの避難所運営マニュアルの作成を行うことで、地域の防災意識を高めていただきたいと思います。

要援護者に対する配慮などの地域で配慮すべき点や実施すべき事項等の詳細、在宅避難者への配慮、地域での備蓄品、地域情報の把握など、地域みなさんでぜひ話し合ってください。

避難所において時系列で何に取り組んでいく必要があるのか等についても、地域みなさんで事前に検討していただくことで、円滑な避難所運営が可能となります。

三重県避難所運営マニュアル 策定指針

基本モデル

避難所運営

在宅避難対応

要援護者対応

被災者管理

食料物資供給

衛生管理

ボランティア対応

帰宅困難対応

避難所開設・運営の基本方針

1

避難所は住民の自治による開設・運営を目指します。

2

避難所は被災者が暮らす場所だけでなく、地域の支援拠点としての役割を担う場所となるよう在宅避難者にも配慮した拠点づくりに取り組みます。

3

要援護者にも優しい避難所づくり、男女共同参画の視点に配慮した避難所づくりに取り組みます。

地域でマニュアル作成にあたり事前に考慮すべきポイント



地域の現状を再確認

- ・ 災害時要援護者の把握
- ・ 観光客、ビジネス来訪が多い地域か
- ・ 夜間・昼間での地域における人材の密度 等



実際の訓練に活用し、不具合があれば再検討する

- ・ 具体的な訓練で不足しているもの等を検証・確認
- ・ 避難所の鍵を誰が保管するのか 等



帰宅困難者や在宅避難者への対応も想定

- ・ 帰宅困難者や在宅避難者への情報提供方法等を検討
- ・ その他物資供給方法や避難者名簿の作り方等を検討



要援護者の状態にあったケアを

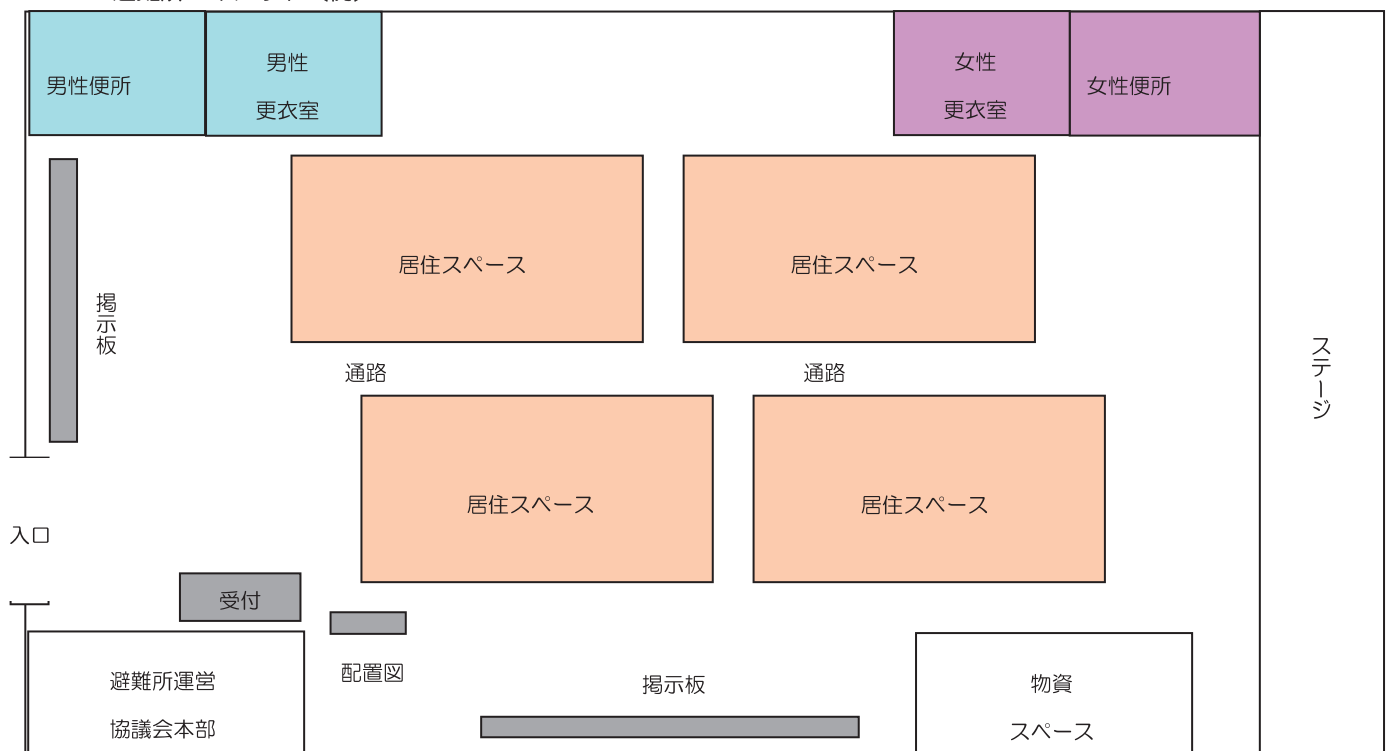
- ・ 災害時要援護状態をケース毎に習熟する
- ・ 状態にあったスペースを提供、動線確保にも配慮



■災害発生から開設（発生から 24 時間）までの流れにおける各活動（例）

時間	安否確認	初期消火 救出・救護	避難支援	（参考）[鍵保管者の行動]
発生 3 分	☐ 家族の安全確保 ☐ 隣近所の安否確認	☐ 隣近所の出火の有無、救助等の必要性の有無確認		☐ 身の安全確保
30 分	「地域の集合場所」へ			
	☐ 安否確認 ☐ 安否確認の継続	☐ 初期消火、救出・救護 ☐ 可能な限り消防団との連携のもと活動可能な住民と初期消火、救出・救護の継続	☐ 要援護者への支援	☐ 無事を伝え、避難所へ
3 時間			☐ 要援護者への支援を行いながら町単位で避難	☐ 開錠し、体育館等開設準備開始
24 時間	↓	↓	☐ 開設準備が整うまでグラウンド等で待機	☐ 開設

■避難所レイアウト（例）



- * 体育館以外のスペースの利用については、施設管理者等とよく話し合い、学校教育活動に必要なスペースはあらかじめ外しておきましょう。
- * 出入口等にスロープ配置、便所の目隠しなどにも配慮しましょう。
- * 観光客等帰宅困難者スペースを確保しましょう。
- * 女性用の洗濯物干場を確保しましょう。
- * ペットについては、原則として避難所への持ち込みは禁止となっていますが、ペットの待避場所を設けるかどうかは、避難所運営委員会で話し合い、最終的に避難所ごとに対応を判断してください。
- * グラウンド等の使い方について、仮設トイレの設置、暖をとる場所、炊き出し場所など多様な用途への活用、また車で避難してくる被災者を想定しての対応など、事前に施設管理者等とよく話し合って最終決定してください。
- * 仮設トイレの設置に当たっては、特に女性や子どもの安全・安心に配慮しましょう。

避難所運営マニュアル基本モデルを参考に、避難所ごとのマニュアルを作成しましょう！



自分の命を守るため！ 地域の未来を守るため！
一人ひとりが考え、ともに行動する！

東日本大震災では、想定をはるかに超える大きな津波によって、多くの命が失われ、まちにも人々の生活にも多大な被害が生じました。

- ◆「自分のところには津波が来ても大した被害はない」と考えて逃げなかった人・・・
- ◆家族を迎えに行ったり、渋滞に巻き込まれたり、避難場所が分からないなどの理由で逃げ遅れた人・・・



津波から確実に逃げるためには

誰かに指示されて行うのではなく
自らの命を守るために
自らが決めて行うことが大切です。

自分の命を守るために

**一人ひとりの津波避難
計画を作しましょう**

地域の未来を守るために

**地域の津波避難
計画を作しましょう**

～ “My まっぷラン” を使って

自分の命を守るために、地域の未来を守るために・・・

- ★住民一人ひとりの命を守るための津波避難計画「My まっぷラン」を活用し、地域の津波避難計画を作りましょう。



- ★「My まっぷラン」を活用した取組では、「住民一人ひとりの津波避難計画を住民自らが作成することから始め、ワークショップを通じて、地域全体の津波避難計画づくりにつなげていく」というプロセスが大切です。

「My まっぷラン」ってなに？

「My まっぷラン」は、川口淳准教授（三重大学大学院工学研究科）が提唱する住民一人ひとりが津波避難計画を作成するための手法です。



三重県

三重県沿岸地域 TSUNAMI避難計画

My まっぷラン



「My まっぷラン」は・・・

- ◆一人ひとりが津波避難を考えるツール（道具）になります。
- ◆家族などで津波避難に関する話し合いをするきっかけにもなります。
- ◆津波避難に関する地域の課題を明確にし、住民の間で共有することができます。

津波避難について考えよう～



**まずは、一人ひとりが
『自分』の“My まっぷラン”を作しましょう**

自分で、あるいは家族で話し合っ、津波から自分の命を守る「最善のプラン」を考えてください。

○「My まっぷラン」は、表面に住所、家族の連絡先など個人の情報、裏面に個人の津波避難計画を書きます。

○「My まっぷラン」は、子どもも大人も1人で1枚を作成します。

○裏面の地図には、家族で話し合っ、避難場所や避難経路を書き込んでください。



地域住民一人ひとりの「My まっぷラン」を持ち寄り、ワークショップを通じて、地域全体の津波避難計画を作成します。



ワークショップの様子

○一人ひとりの「My まっぷラン」に書かれた避難場所や避難経路を集計し、地域全体の避難行動を考えます。

○ワークショップ（検討会）で、避難する上での地域の問題点や避難行動など、地域で検討すべき課題を話し合います。

○津波避難訓練を通じて、避難場所や経路、避難の際の行動などを確認・検証した上で、地域の津波避難計画を作成します。

**みんなの“My まっぷラン”をもとに
『地域』の津波避難計画を作しましょう**



・・・「防災の日常化」をめざして・・・

私たちは、この三重の豊かな大地や海から多くの恵みを受けてきました。その一方で、大地や海は、たびたび地震・津波を起こし、私たちに大きな災いをもたらしてきました。しかし、その都度、私たちの先人は立ち上がり、復興し、今日の三重を築いてきました。

今後も、私たちに大きな災いをもたらす地震・津波は必ず発生します。この三重の地で生きる以上、避けて通ることはできません。つまり、この三重の地で生きる私たちは、地震・津波への備えを万全にし、その備えを“当たり前なもの”にしなければなりません。

それが「防災の日常化」です。

県民の皆さん一人ひとりの生活の中に、「My まっぷらん」が当たり前のように入っている、そんな日がいつか来ることを信じて、皆さんと一緒に取組を進めていきます。

日頃から、家族みんなで
“My まっぷらん”を使って
津波避難について話をしている



出かける時にも
“My まっぷらん”
を常に持っている



三重県防災対策部防災企画・地域支援課

〒514-8570 津市広明町13番地

電話 059-224-2185

FAX 059-224-2199

e-mail bosai@pref.mie.jp